

<令和元年度具体的施策の取組状況>

資料 4

【基本目標①】 3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり

(1) 産業振興・雇用創出

①国内・外への市場拡大及び新商品開発支援	令和元年度取組実績
<p>官民連携による境港産農水産物の付加価値向上（ブランド化）とPR強化及び販路拡大のための支援体制の充実</p>	<p>（水産物） 関係機関と連携し、PRなど以下の取り組みを実施 ・クロマグロPR：マグロ感謝祭の開催、マグロポロシャツの販売、マグロ集会の開催、マグロのぼりの掲揚、初セリ式の開催、県外イベントで試食販売 ・カニPR：カニ感謝祭の開催、カニ集会の開催、出漁式・初セリ式の開催、県外イベントで試食販売・カニ汁ふるまい ・新市場PR：シンボルマーク・キャッチフレーズの公募、供用開始セレモニー、市場見学ツアーの実施 ・産地境港PR：高速バス背面広告掲載、S a e級グルメ全国大会へ参加</p> <p>（農産物） 特産の伯州綿について、地域おこし協力隊の活用や民間企業との連携を図りながら、情報発信、付加価値の向上に向けた商品開発、販路拡大に取り組んだ（てめぐいひらひら、きさらぎ株）との農商工連携、泉佐野市フェイスタオル作成、米子天満屋出店など）</p>
<p>特産品を活用した商品開発への支援や開発した商品の国内外へのPR強化</p>	<p>（水産物） 関係機関等と連携し、PRなど以下の取り組みを実施 ・第8回みんなで選ぶ境港の水産加工大賞の開催、イベントで加工大賞商品の試食販売PR、カニカレーの開発</p> <p>（農産物） 特産の伯州綿について、地域おこし協力隊の活用や民間企業や他地域特産品等との連携を図りながら、情報発信、付加価値の向上に向けた商品開発、販路拡大に取り組んだ。</p>
<p>境港に寄港するクルーズ船に対する県産食材の試食会やPRによる販路拡大の推進</p>	<p>・水産物や水産加工品、飲食店などの紹介チラシの配布 ・クルーズ船船会社に特産品の使用を働きかけた結果、ぱしふいっくびーなすの境港寄港にあわせ、船内料理の食材に使用された。</p>

①国内・外への市場拡大及び新商品開発支援	令和元年度取組実績
圏域内外の企業を結び付けるビジネスマッチングの開催や圏域企業を紹介するデータベース化などによる支援の推進	令和元年11月21日、出雲市（平田）でビジネスマッチング商談・展示会を実施。圏域内外の企業291社が参加。圏域のデータベース事業として、R2・2月現在579社が登録し、圏域内外からの企業間取引活性化に繋げている。
DBS航路や中韓コンテナ航路を活用した販路拡大に対する支援制度の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・境港貿易振興会において、前年度から引き続き国際定期航路を利用する荷主への助成補助制度を実施。 ・DBS航路に係る助成を初めて受ける荷主に対する助成の期間を延長。 ・DBS航路を利用する際の国内輸送経費に対する助成額のうち、遠隔地を起点・終点として輸送する貨物に対する助成額を増額。
6次産業化に取り組む民間事業者や団体などへの支援制度の整備	カニ爪加工工場の整備について翌年度整備に向け協議
漁業所得向上のための境港地域浜の活力再生プランの推進	第1期プランの検証と第2期プランの計画
②農業・水産業の担い手育成・確保	令和元年度取組実績
沿岸、沖合漁業等への新規就業希望者への研修等を実施する事業者への支援や新規就農者の就農初期費用の助成などの新規就業環境の充実	漁業研修事業の実施：令和元年度27人（修了後就労者16人、翌年度へ継続者9人）
国及び県との連携による就農に対する給付や住宅整備などの支援	生産基盤が脆弱な新規就農者の経営安定を図るため、機械・施設等を整備する費用等の支援を実施。 ※農業次世代人材投資資金：6件、就農条件整備事業：2件、親元就農促進支援交付金：2件、農地賃借料助成：7件など
荒廃農地の有効活用を図るため、農業公社による農地の流動化の促進	農業公社による農地賃借事業を実施し、農地の流動化に取り組んだ。 借入面積：110.2ha、貸付面積：97.8ha
既存施設を活用した「伯州綿」に触れる機会の創出や官民連携した学ぶ場の創出	海とくらしの史料館での展示や、市民団体（子どもたちと綿をつくろう会）と連携した小学生の体験学習、保育施設や介護施設での綿繰りや紙漉きの体験を実施し、伯州綿に触れ合う機会を創出した。
種まきから収穫までを体験できる場の創出	伯州綿の種まきから収穫まで一貫して栽培に取り組む市民サポーター制度や親子種まき、収穫体験を実施。 ※サポーター：45組・100人、種まき体験（8人）、収穫体験（雨天で中止）、サポーター交流会（16人）

②農業・水産業の担い手育成・確保	令和元年度取組実績
外国人労働力の受入れの検討	実績なし（農政課）
③企業誘致及び起業・創業の拡大	令和元年度取組実績
企業訪問や展示会等への参加及び企業誘致推進体制の整備	企業誘致物産観光推進委員の人脈や、鳥取県と情報共有を密にし企業訪問等の誘致活動を実施。立地企業3社（ププレひまわり、マルイ、東京エネシス）
地域の特性・実情に応じた業種に対する企業誘致活動の推進	港湾を有する優位性により、東京エネシスの誘致に結び付けることが出来た
企業立地と雇用の拡大を図るため、操業時の投下固定資産総額、新規雇用人数に応じて、企業立地補助金、固定資産税減免、雇用奨励金などによる支援制度の充実	操業時の投下固定資産総額、新規雇用人数に応じて、企業立地補助金、固定資産税減免、雇用奨励金などによる支援を実施。
鳥取県西部地域（9市町村）で、新設又は増設により、雇手を拡大した企業の支援や企業立地フェアに出展するなど広域での取組の推進	鳥取県西部圏域で新設又は増設された企業に対し、各市町村在住者の新規雇用人数に応じ補助金を交付。また、西部圏域9市町村合同で「関西機械要素技術展」（大阪市）へ出展し、PR活動を実施。
竹内南地区貨客船ターミナル整備との相乗効果により、物流・人流の拡大に資する企業・施設の誘致活動の促進	・鳥取県や境港商工会議所、銀行等と連携して、賑わいづくり検討会を実施。 ・境港貿易振興会をはじめとする関係機関と連携を図り、境港利用促進懇談会や企業訪問を通じて、ポートセールスを実施（通年）。
県と連携し、創業時の初期投資の補助や創業貸付の利子補給などの支援体制の整備	創業時の設備投資、備品等の支援を実施。 ※創業支援補助金実績 7件
地域ファンドや官民ファンドなど金融支援体制についての検討	取組実績なし
小規模事業者向け融資の利子補給など支援体制の整備	小規模事業者向け融資の利子補給など各種制度資金の運用を円滑にし、資金面の支援を実施した。 ※小規模事業者経営改善資金利子補給補助金実績 19件
国産材、県産材の消費量増加を図るため、施設整備に対する支援	実績なし。

③企業誘致及び起業・創業の拡大	令和元年度取組実績
企業誘致推進などの委員会委員の民間委嘱や協定締結などの官民連携強化の促進	本市にゆかりのある三大都市圏域在住者6名を、企業誘致・物産観光推進委員に任命し、取引先紹介による企業誘致活動を実施。 その他、米子高専、山陰合同銀行、鳥取銀行と業務協力に関する協定を締結中。
鳥取県西部地域での「創業サポートセンター」の設立や市相談窓口設置など創業に向けた支援体制の充実	鳥取県西部9市町村共同で「鳥取県西部創業サポートセンター」を設置。本市にも創業相談窓口を設置して、支援体制の拡充を行った。

(2) 観光の振興

①観光地の魅力度向上による滞在型観光の推進	令和元年度取組実績
全国的な知名度を誇る「水木しげるロード」の車道の一方通行化、歩道拡張、妖怪ブロンズ像の再配置などの大規模リニューアルの実施	平成30年度完了
水木しげるロードリニューアルに合わせた、官民連携による街並み整備の促進	街なみ環境整備事業補助金の審査会に7案件の審査依頼があり、そのうち6案件について補助金の交付決定を発行し、6案件全てが工事を完了。
ホテルの開業に合わせ、水木しげるロードのライトアップなど夜間の賑わい創出及び滞在時間延長の取組の推進	・水木しげるロード振興会、土曜夜市実行委員会等と連携し、土曜夜市や妖怪ナイトウォーク、ハロウィン、クリスマスイベントなど夜間イベントを実施して夜の賑わいを創出した。 ・夏休み期間中は、水木しげる記念館の開館時間を20時まで延長。また、土曜夜市に合わせてはまる一歩バスによる夜間運航を実施し、夜間の滞在時間の延長を図った。
観光客の満足度の向上を図るため、水木しげる作品のキャラクターの着ぐるみによるおもてなしの充実	年間を通じて着ぐるみによるおもてなしを行なうとともに、夜間イベント時には着ぐるみとともにロードを練り歩く、妖怪ナイトウォークを実施し、おもてなしの充実を図った。
圏域内観光情報アプリの活用などの観光ICT化の推進	中海・宍道湖・大山圏域市長会が運営する「縁おすびスマートナビ」に参画し、圏域内で連携して情報発信をとともにAreader（エアリーダー）を活用した妖怪ブロンズ像の解説を行った。
水木しげるロードと他の観光施設を結ぶ無料シャトルバスの運行などの二次交通の充実	GWとお盆の繁忙期において、主要観光施設（水木しげるロード、水産物直売センター、夢みなとタワー等）を結ぶシャトルバスを運航する民間組織の支援を行った。 ※年間計8日間（GW：4日間、お盆：4日間）運行し、延べ976人が利用

①観光地の魅力度向上による滞在型観光の推進	令和元年度取組実績
水産まつり、マグロ感謝祭、カニ感謝祭、境漁港見学ツアー等のイベントの充実など、水産資源を生かした観光の推進	<p>水産まつり、マグロ感謝祭、カニ感謝祭に加え、沿岸漁業者が開催する「中野港漁村市」への開催支援や、おさかなガイドによる境漁港見学ツアーなど水産資源を活用した観光振興を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産まつり 10月13日開催 来場者約45,000人 ・まぐろ感謝祭 6月16日開催 来場者約6,000人 ・カニ感謝祭 1月19日開催 来場者約1,200人 ・中野港漁村市 5～7・9月開催 来場者約6,400人 ・境漁港見学ツアー 令和元年度 1,323人参加
囲ーリングなどのマリンスポーツを始めとしたスポーツツーリズムやブルー・ツーリズム（漁村滞在型余暇活動）などを推進する体験メニューの造成と受け入れ体制の整備	<p>スポーツツーリズムについては、民間企業がセーリング体験や、クルージング等の新たなレジャー事業を展開しており、ブルー・ツーリズムについては、漁港見学ツアーなど体験型の観光ツアーを通じて、海や魚に対する親しみをってもらい、中野港漁村市や境港水産まつり、境港おさかなロード大漁祭等のイベントと組み合わせて実施している。また、漁港見学ツアーには、インバウンド対策として、外国語対応可能なガイドを配置している。</p>
既存観光施設のブラッシュアップ（磨きあげ）と名所や旧跡などの新たな観光資源の掘り起こしによる観光地の魅力度向上	<p>妖怪着ぐるみによるおもてなしの発信基地である妖怪お休み処「砂かけ屋」を移転し、SNS映えする外観に改修し魅力向上を図ったほか、名所旧跡を巡るウォーキング大会「境港さかな・妖怪ウォーク」を開催し、新たな観光資源の掘り起こしによる観光地の魅力向上を図った。</p>
「みなと祭」や「境港妖怪ジャズフェスティバル」などのにぎわい創出イベント開催支援による誘客の促進	<p>「みなと祭」や「境港妖怪ジャズフェスティバル」への開催支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※「第74回みなと祭」来場者数75,000人 ※「境港妖怪ジャズフェスティバル2019」来場者数2,102人
県、関係機関と連携した教育旅行の誘致やロケ地誘致の推進	<p>鳥取県、中海・宍道湖・大山圏域観光局、松江境港隠岐観光振興協議会等と連携し、旅行会社との商談会やメディアの取材対応等のPR活動を実施するとともに国際定期便利用促進協議会の教育旅行貸切バス等運航経費支援事業を積極的にPRする。</p>
隠れた良いものの掘り起こしから販売促進を行う「いいものマルシェ」の開催支援	<p>令和2年3月22日松江市にて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止</p>

①観光地の魅力度向上による滞在型観光の推進	令和元年度取組実績
「日本版DMO（着地型観光のプラットフォーム組織）」設立の検討	鳥取県、島根県のDMO「山陰インバウンド機構」に加え、「中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構」を一般社団法人化し「（一社）中海・宍道湖・大山圏域観光局」として各種支援を活用した一体的な観光振興事業に取り組むとともに、県西部地域においては、「大山開山1300年祭」後を引き継ぐ組織として、「大山山麓観光推進協議会」を改組し、新たに「大山山麓・日野川流域観光推進協議会」を設立し県西部の広域観光連携の一体的な推進を図った。
県、鳥取県西部地域（9市町村）などとの連携による「大山開山1300年祭」を通じた広域観光の推進	「大山開山1300年祭」の事業を継承する「大山山麓・日野川流域観光推進協議会」と連携し、県西部の一体的な観光の推進を図った。
②外国人観光客の誘客促進	令和元年度取組実績
県や圏域4市などとの連携による大型クルーズ客船の寄港促進	境港管理組合や鳥取県、島根県、中海・宍道湖・大山圏域観光局構成市、商工会議所や観光協会等で組織する境港クルーズ客船環境づくり会議が中心となって、クルーズ客船の誘致活動や客船寄港時のおもてなしイベント、観光案内、二次交通対策を実施し、インバウンドの推進を図った。 ※寄港回数53回、乗客人数63,896人（令和元年実績）
クルーズ客船、国際チャーター便等の外国人観光客に対するお出迎え・お見送りイベント、交流イベントなどの実施によるおもてなしの向上	境港管理組合や中海・宍道湖・大山圏域観光局、米子空港利用促進懇話会等と連携し、クルーズ客船やチャーター便等のお出迎え・お見送りイベントを実施し、「SAN-I Nまんなかクルーズファン」の会員拡大に向けた取り組みを行った。
クレジットカード・電子マネー対応、免税店の開設、公衆無線LANの整備、多言語対応ガイドマップの作成などの外国人観光客受入体制の整備	外国語観光パンフレットの作成や公衆無線LANの運営、多言語対応観光アプリの運営等により、外国人観光客の受け入れ体制の推進を図った。
Facebook、TwitterなどのSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）やYouTubeを活用した情報発信の充実	境港市公式ホームページと連動したFacebookや縁むすびスマートナビにより情報発信を行うとともにYoutube公式チャンネルにより水木しげるロードの情報発信を実施した。
外国語会話ができる人材育成のための教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・境港商工会議所で開催されている韓国語講座に講師として国際交流員を派遣。 ・民間団体が行う中国語講座に講師として国際交流員を派遣。 ・小学5年生を対象とした土曜英語学習「うきうきイングリッシュ」を7回実施。 ・中学校教員を対象とした英語指導力向上研修（テスト作成検討会）を実施。

③米子鬼太郎空港・DBSクルーズフェリーの 利用促進	令和元年度取組実績
県や関係機関と連携して、グループ旅行支援、DBSクルーズフェリー・ソウル便を利用した周遊型旅行商品の造成支援などの充実	経済団体等や観光団体と行政で組織された国際定期便利用促進協議会を通じて山陰旅行商品を販売する旅行会社への支援を行った。
県や中海・宍道湖・大山圏域との連携による環日本海定期貨客船航路の安定化、利用促進への支援	・環日本海定期貨客船航路の安定運航に資するため、鳥取県及び中海・宍道湖・大山圏域市長会と連携し、1航次あたり100万円を上限に運航経費の一部を助成。(総額32,000千円 県：市長会=7：3) ・市長会事業として地元企業の海外商談会への参加を助成する制度も設け、海外展開を支援。 令和元年11月28日から運休
県や関係機関と連携した米子鬼太郎空港活性化の推進	米子空港利用促進懇話会や山陰国際観光協議会を通じ、県内外への観光PRのほか、市民に向けた利用促進を行った。また、米子空港ビルでのイベント開催等に出展及び支援を行った。

(3) 社会基盤の整備

③みなとを核とした官民連携による賑わいづくり	令和元年度取組実績
竹内南地区貨客船ターミナル整備事業に合わせて、県勢の振興とターミナル周辺の賑わいづくりを図るため、県と協働で水族館設置の検討	・境港整備要望活動(7月8日、11月21日、2月6日) ・竹内南地区貨客船ターミナル「境夢みなとターミナル」が令和2年4月に完成。 ・水族館構想については凍結としている。
夢みなとタワー周辺地区の魅力向上への取組の検討	官民で組織する検討会を「竹内南地区賑わいづくり連絡会」に改組し、2回(8/28・2/12)の会議を開催した。ターミナル制定管理者(KSF共同企業体)による取り組みの他、賑わいづくりに向けた方向性を取りまとめ、「境港港湾計画」改訂の基礎資料となる「境港長期構想」にビジョンが掲載された。
物流拠点「境港」の利便性向上や航路ネットワークの充実を図るため、国内RORO船の定期航路化の推進	北海道⇄境港間のRORO船によるトライアル輸送の実施(6月25日、7月23日寄港)したほか、荷主企業や運送事業者で構成する『境港内航RORO船開設推進協議会』が設立され、航路開設に向けて働きかけを強めた。

(4) 移住・定住の促進

①移住・定住の促進・情報発信の充実	令和元年度取組実績
月5,000円程度で100坪相当の土地が51年間賃借できる夕日ヶ丘地区の定期借地権制度を活用した移住・定住の促進	定期借地権制度を活用し、移住・定住の促進に取り組んだ。 〈移住・定住者（市外・県外出身者）の契約実績 契約件数 5件、世帯人数19人
大型防災ヘリコプター配備など自衛隊美保基地のさらなる輸送機能強化への国への働きかけ	C2輸送機を1機配備
鳥取大学の水産学科や国・県の補助機関、研究施設などの設置に対する働きかけ	鳥取大学の課外授業に協力、近畿大学と意見交換
近隣市と共同での新卒大学生等を対象にした就職情報サイトの運営、就職フェアの開催など地元就職の支援体制の整備	就職情報サイト「S-C-T」により県外在住者への地元企業の魅力を発信したほか、しまね大交流会において大学生等に地元就職のPR活動を行った。また県立ハローワークと連携し、地元就職のための足掛かりとするための地元企業見学会「オープンカンパニー」を実施する予定であったが新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。
地域おこし協力隊制度を活用した、地域の特産「伯州綿」事業の充実、移住・定住の推進	地域おこし協力隊による伯州綿栽培・商品企画・開発・販売・情報発信等 てぬぐいひらひら開催（11月）
産・官・学が連携し、インターンシップ実施、学生と企業のマッチング体制の充実など若者の定住施策を推進	島根大学等が主催するしまね大交流会において大学生等に地元就職のPR活動を行った。
「全国移住ナビ」など、インターネットを活用した移住希望者への情報発信の充実	鳥取県が毎月取りまとめる移住者向け案内情報（SNS、メールマガジン）に毎月情報提供を行った。全国移住ナビは令和元年度をもってサービスが終了した。
本市への愛着を醸成し、将来のUターンにつなげるため、子どもを対象とした郷土愛づくりへの取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科副読本を改訂し小学3年生に配布 ・各小学校の「総合的な学習の時間」において地域学習を実施 ・コミュニティ・スクールの取り組みの中で、地域の方をゲスト・ティーチャーとした学習を実施 ・中学生職場体験学習「ワクワク境港」を実施
鳥取県西部地域で、都市部からの移住体験ツアーや誘致パンフレット作成など広域での移住施策の推進	定例担当者会議を各地区の移住支援拠点にて開始し、ノウハウの横展開を図った。また、西部地域9市町村の情報をまとめた移住パンフレットを作成した。

<基本目標②> 「子育てするなら境港」を標榜した子育て環境づくり

(1) 少子化対策・子育て支援

①出会いの場の創出	令和元年度取組実績
結婚希望者への婚活支援として、婚活コーディネーター設置の検討など相談、支援体制の充実	とっとり出会いサポートセンター「えんトリー」との連携事業として、境港市の方を対象に入会登録料半額キャンペーンを実施したほか、市内での説明会の開催を協力し、会員登録者数の増加に向けたPRを行った。また、「えんトリー婚活塾」の市内開催の広報に協力し、結婚希望者のマナーアップ等を図った。
未婚、晩婚化の解消を図るため、中海・宍道湖・大山圏域（5市6町1村）で一体となり、地域の特色を生かした交流会などの婚活支援事業を実施	中海・宍道湖・大山圏域共同で圏域一体での婚活事業を実施した。 （参加者数）米子、松江市の2会場で実施。2会場計 155人
②安心な妊娠出産環境・子育て支援の充実	令和元年度取組実績
特定不妊治療と人工授精に要する経費の助成	平成29年度から①「一般不妊治療費（保健適応分）」②「不妊検査費」に対する助成を開始し、②については、県の助成、助成対象外にかかわらず、市独自の助成を行っている。不妊検査を受ける夫婦が増加し、結婚早期から必要な治療に結び付きやすい状況が進んでいる。
妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援の充実	平成28年度より「境港市子育て世代包括支援センター」を開設し、専門のコーディネーターを設置。きめ細かな相談・支援を行っている。 令和元年度より、産後健診に産後うつ病質問票を取り入れ、産後2週間・4週間の2回公費により実施することで、産後早期からの母子支援を強化し、妊娠期から子育て期への切れ目ない支援体制の強化を図った。
県と連携し、第3子以降の保育料の無料化など保護者負担の軽減	①第3子以降の保育料無償化を実施。市民税非課税世帯の方は第2子から保育料無償化を実施。（県と連携） ②ひとり親世帯の方の保育料を、市民税非課税世帯の方と同程度になるよう引き下げ実施。（市独自施策） ③R1.10からの幼児教育・保育無償化に伴い保護者が負担すると整理された副食費について、世帯第3子の副食費の助成を実施。（市独自施策） ④認可外保育施設に通う第3子以降の保育料についても無償化、未移行幼稚園に通う第3子以降の副食費の助成を実施。（市独自施策）

②安心な妊娠出産環境・子育て支援の充実	令和元年度取組実績
県と連携し、医療費の助成対象を拡充（15歳⇒18歳まで引き上げ）	平成28年度に実施済。
配偶者のない父または母が養育している児童・生徒の小・中学校入学に際し、支度金を助成	引き続き、小・中学校入学時に助成を実施。（H30年度より支給時期を見直し、入学前に給付を受けられるように改善）
保育士の就労環境の改善を図るため、私立保育園の保育士を増員するための費用を助成	加配保育士の配置に係る費用の助成や1歳児の保育に係る保育士の配置人数を国基準より多く配置した場合の費用を助成
病気又はその回復期にあり、集団保育が困難な児童の専用施設での一時保育の実施	専用施設にて1歳～小学校2年生までの病気又はその回復期にある幼児・児童の一時保育を実施
保育環境の改善のため、こども支援センターの設備整備等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・こども支援センターの冷房機器の更新を行い環境の改善を図った。 ・園児が水遊びなど素足で活動する際のけが防止のため、公立園のテラス（コンクリート）部分にマットを敷くなどの改善を図った。
児童クラブ事業の実施及び受入対象児童の拡充（小学校4～6年生児童の受入）	平成30年度に市内すべての児童クラブで実施済み
赤ちゃん教室、ブックスタート、親子関係づくり・地域交流促進のための学習会、講演会の開催など親子の関わりやコミュニケーション力向上に向けた事業の充実	妊娠期から子育て世代を対象に「両親学級・赤ちゃん登校日・子育ての旅」など、親子関係づくりやコミュニケーション能力の向上等を目的とした事業を継続して実施。
地元食材、人材を活用した食育事業の実施	市内の保育園や幼稚園で、銀鮭、クロマグロ、紅ズワイガニなど境港を代表する食材を利用した食育集会やフィッシュキッチン等を、生産者(水産関係者、港ベジターズ等)や地域ボランティア(食生活改善推進員等)と協働で実施。
高齢者を活用するなど地域での子育て支援施策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地区敬老会への年長児の参加や園行事への高齢者の招待等、園児とのふれあいの機会創出や園庭での野菜栽培を通じた交流実施 ・小学生の下校時の見守り等に高齢者が参画 ・小学生が昔遊びを学ぶ授業に地域の先生として参画
地域と学校が連携した地域の歴史・風土などを学ぶ「ふるさと学習」の充実	各小学校の社会科及び「総合的な学習の時間」において地域学習を実施
小学校、保育園、幼稚園の連携体制の充実	保育園・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携に係る職員研修の実施。上道小学校の教員が1年間あがりみち保育園で勤務し、幼児期の指導及び育ちを踏まえた小学校低学年での指導のあり方について研修するなど、更なる連携体制の充実に取り組む。

②安心な妊娠出産環境・子育て支援の充実	令和元年度取組実績
外遊び環境の充実のための遊具整備、除草回数が増加などの公園整備の充実	老朽化した下ノ川1号公園のラダー（うんてい）を更新した。 委託やボランティアによる除草と併せて、職員による直営の除草により、状況に応じた除草を実施した。

(2) 女性活躍の推進、ワーク・ライフ・バランスの啓発・支援

①ワークライフバランスの啓発・支援	令和元年度取組実績
事業所を対象にしたセミナーの開催など、ワークライフバランスや男女均等な能力活用についての周知・啓発の実施	事業所研修において、ワーク・ライフ・バランスの啓発及び理解の促進を図った。
男女がともに働きやすい就労環境実現に向けた啓発事業の実施	望む職場環境や自らの働き方を考える内容の事業所研修を行い、啓発を行った。
②女性の就労環境充実のための家庭介護負担の軽減	令和元年度取組実績
地域、医療・介護の連携した地域包括ケアシステムの構築	市内では地域ケア会議（3回）や市内事業所ケア事例検討会（2回）、多職種連携研修会（1回）を開催。西部圏域では医療・介護連携に係る意見交換会を毎月開催。 各地区における見守り体制の構築（新規立上げ：小篠津町、幸神町）
介護（認知症）予防教室の開催、健康診断の受診勧奨など健康寿命の延伸に向けた取組の実施	「フレイル予防事業」では、講演会の開催に加え、養成講座を2回開催し、フレイルサポーターが48人に増加。サポーターとともに市内各地でフレイルチェック（18回・延べ238人）を実施。 運動機能向上事業として「いきいき百歳体操」の普及と自主的に行っている団体のフォローを行った（23回、延べ340人）ほか、認知症予防事業（50回、延べ1,475人）、「ふれあいの家」等での講話や健康相談（43回、延べ751人）、筋力向上トレーニング事業（198回、2,509人）などを実施。
市民の健康データ分析による生活習慣病予防、重症化予防、介護予防の取組の実施	健康データの分析結果を活用し、糖尿病の重症化が予測される人に対し、保健師・栄養士が個別の生活支援を継続した。 「健康づくり推進計画」に基づき、事業を進め、骨密度検査、成人歯科健診を新規事業として取り組んだ。 「健康づくり推進計画評価委員会」にて評価し、課題を整理した。

《圏域の目標》 広域連携により魅力ある圏域づくり

(1) 中海・宍道湖・大山圏域市長会

①国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	令和元年度取組実績
北東アジアに向けたゲートウェイ機能のさらなる活用	<ul style="list-style-type: none"> ・中韓コンテナ航路の新規就航に伴い、境港貿易振興会や鳥取県と連携してセレモニーを開催。 ・鳥取県や中海・宍道湖・大山圏域市長会、環日本海経済活動促進協議会、境港貿易振興会と連携し、DBS航路就航10周年記念式典並びに記念レセプションを実施。 ・中海・宍道湖・大山圏域市長会や環日本海経済活動促進協議会、境港貿易振興会と連携し、境港の利用億進・クルーズ客船の誘致・交通網の充実に向けた要望等を実施。
圏域企業の海外進出支援のための官民挙げた「インド」進出	インド留学生等のインターンシップについて、令和2年3月に実施予定として準備していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。
圏域の特長を活かした企業や研究機関の誘致	研究機関の誘致に向けて、近畿大学と協議を行った。
インバウンド観光の推進	中海・宍道湖・大山圏域観光局に参画し、圏域のインバウンド対策事業として、クルーズ船おもてなしや海外での観光PR等を行うとともに外国語パンフレットの作成やスマートフォンアプリによるインバウンド観光を推進した。
国内観光の推進	中海・宍道湖・大山圏域観光局が行う三大都市圏での観光PRや鳥取県観光連盟が主催する観光商談会等に参加し、「さかなと鬼太郎のまち境港」の観光PRを実施し、国内観光客の誘客を図った。
地域資源の発掘	圏域のいいものを一体的に情報発信し、販路拡大、付加価値の高い商品づくりを促進していくため、圏域内の「山陰いいものマルシェ」、圏域外の「山陰いいものプレミアムマルシェ」を実施した。そのほか、クルーズ船仕入れ担当による視察ツアーを島根県と連携し実施した。
圏域への移住・定住の促進	<p>将来的に圏域で活躍する人材の育成と、若者の地域への定着促進を図るため、島根大学と連携し、学生がフィールドワークにより圏域の特色・戦略・課題を学び、成果発表をする機会を設けた。</p> <p>また、関係人口の創出を図るため、東京大学地域未来社会連携研究機構と、大学生による圏域の未来に関わる研究や人材育成等に関する包括協定を締結した。</p>

②交通ネットワークの充実	令和元年度取組実績
5市を2つの湖を介して結ぶ「8の字ルート」の早期完成	<p>【山陰道】 米子東IC～出雲IC間は全線開通済。現在は、山陰道米子道路(日野川東IC～米子南IC間)の定時性・安全性の向上を図るため、付加車線の整備促進について、国や関係機関に要望活動を実施。 ※国道9号整備・山陰自動車道建設促進鳥取県期成会の要望活動実施状況 令和元年 7月 4日：国土交通省鳥取河川国道事務所・倉吉河川国道事務所 令和元年 7月11日：国土交通省中国地方整備局 令和元年10月16日：国土交通省、財務省、地元選出国會議員</p> <p>【境港出雲道路】 全線L=70kmのうち12.4kmが供用中。早期全線開通に向けた事業の推進とルート帯が決定している松江北道路(松江イングリッシュガーデン付近～川津IC間)の早期事業化について、事業主体である島根県に要望活動を実施。 ※出雲・美保間幹線道路整備促進期成同盟会の要望活動実施状況 令和元年 8月 1日：島根県土木部長 令和元年10月15日：島根県知事 ※中海・宍道湖・大山圏域市長会が令和2年3月26日に島根県知事要望を実施。</p> <p>【米子ー境港間の高規格道路】 ・米子ー境港間を結ぶ高規格道路の事業化について、鳥取県、米子市、境港市で令和元年8月7日に初めて国に要望活動を実施。11月12日には、日吉津村も加わり、2回目の要望活動を行い、高規格道路の必要性を国に強く訴えた。 ・国や県、関係する自治体で構成する「米子・境港地域と道路のあり方検討会」は、下部組織である「まちづくりWG」・「ストック効果WG」・「事故・渋滞WG」を開催し、令和2年3月に「第2回あり方検討会」に向けた「米子・境港間の高規格道路を活かしたまちづくり」のとりまとめ(案)を策定し、意見交換会を開催した。</p>

③住みたくなる圏域づくり【具体的施策】	令和元年度取組実績
自然環境の保全と活用	<p>中海・宍道湖・大山圏域市長会において、以下の取組みを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象とした自然環境学習 ・EVドライブマップの更新 ・自然環境の保全等に係る広報啓発（ノベルティグッズ配布、水鳥フォトコンテスト作品展示、モバイルスタンプラリー開催） ・中海海藻米の学校給食への活用
④住民サービスの向上	令和元年度取組実績
「公共交通の利便性向上」、「人材育成の共同化」、「公共施設の共同利用」の推進	<p>[人材育成]</p> <p>中海・宍道湖・大山圏域市長会構成市で連携し、以下の取組を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山陰まんなか未来創造塾」に圏域から行政・経済関係者が参加（境港市からは職員4名が参加） <p>松江市が実施する能力開発セミナー「パッと伝わる 公務員のデザイン術」に境港市から職員3名が参加</p> <p>[公共交通]</p> <p>はまる一歩バスを便利に安心して活用してもらえるよう、高齢者等を対象とした「乗り方教室」を市内7地区で開催した。</p> <p>はまる一歩バスの利用実態を把握し、利便性向上のための基礎データとするため利用実態調査を実施した。</p>